

中央環境審議会第 20 回大気環境部会(平成 17 年 12 月 16 日)
における委員指摘事項(暫定版;事務局文責)

平成 22 年度の大気環境基準達成見込みのシミュレーションを行う場合には透明性の確保に留意すべき。

自治体の取組も参考にして大気改善効果を検討の上、流入規制をぜひ行うべき。

エコドライブの機運を盛り上げるためには、効果に関するデータ提供と褒めてあげるシステムを検討すべき。

局地汚染対策を進めていく上では、自動車排出ガスの測定網の充実を図るべき。

エコドライブ教育の啓発の仕組みについても検討すべき。

ロードプライシングや公共交通への誘導についても検討すべき。

局地汚染対策として、都市環境対策を進めることは重要であり、具体策の検討とあわせて、ただ汚染を拡散させて絶対量を増やしてしまうことにならないように注意すべき。